APEX CLUB

'08/11

第26号

アペックス産業株式会社

『APEX CLUB』
発　行　2008年11月1日(通算26号)
発行所　アペックス産業㈱「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014　東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474　FAX 03-3455-6558
ホームページ http://www.apex-sangyo.jp
発行人　元木　貢　(編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健
(事 務 局)田口久美

主の声

☆今夏の猛暑やゲリラ豪雨には、温帯の亜熱帯化を感じさせるものがありました。このままいくと、生物分布にも影響が及んでくることは必至です。
☆でも、それらの生物にとっては「住みよい環境を求めて移り住んできただけ。それを防除しようとするのは人間様の勝手」と言われそうです。来やすい環境を作っておいて、今さら「出て行け」とは、という声が聞こえてきそうです。
☆次号の標本棚のテーマは「エコ」です。皆様の身の回りの「エコ」の話題をぜひご投稿ください。

ギャラリー

絵 画

第35回 ドレ展

●ドレ展

女流画家桜井浜江先生の教え子によるグループ展で、毎年七月に銀座竹川画廊で開催され、今年で三十五回を迎えた。

桜井浜江先生は一九〇八年山形市出身。太宰治の「饗応婦人」のモデルとしてもつとに有名。昭和六年の第一回独立展に入選以来、一貫して同展に出品を続け、昭和二十九年に独立美術協会会員となった。東京女子医大職員美術部でも顧問となって指導にあたられた。心臓外科の権威、榊原博士も学長時代に師事されたという。昨年、九十九歳で逝去されたが、そのエネルギッシュな作品は、今も各地の展覧会で感動を与え続けている。

宇津木 和夫『プラノ島[ベネチュア]』(F20)

堀　桂子『黎明[師への思い]』(F100)

元木　貢『炎』(F20)

松本　克彦『天神平の初秋』(F20)

むし籠

ねずみ塚

去る七月二十八日、東京都渋谷区広尾にある祥雲寺で、ねずみ駆除協議会の主催によるねずみ供養が行われた。本年が当協議会設立四十年、子年であることから、ねずみにゆかりのある同寺で総会を開催することとなった。岩崎住職からお寺と境内にあるねずみ塚の由来の説明をいただいたのち、ねずみ塚の前で読経と焼香。毒性試験に供されたネズミや駆除されたネズミの供養を行った。

祥雲寺は、京都の大徳寺の竜岳和尚が開山し、建立した。戦国武将、黒田長政をはじめ有名人が多く眠っている。明治二十七年に香港で流行していたペストが、明治三十二年に神戸に上陸、明治三十四年には東京にも広がった。東京市は一万円の予算を計上し、実に二十万匹を一匹五銭で買い上げた。そんなネズミ達を供養するために明治三十五年に建てられた碑である。碑の裏には、ねずみ供養の詩「数知れぬ、ねずみもさぞや浮かぶらむ、この石塚の重き恵みに」と、寄贈者の名前一覧、ネズミの絵が彫られている。

サイクリング

最近の自転車ブームに煽られ、昔の遠出を思い出し、仲間と埼玉から厚木市の北、愛甲郡清川村の宮ヶ瀬湖までのサイクリングに出かけた。片道七十キロ、アップダウンの多いハードな道のりだ。

仲間全員がロードレーサーの格好の中、私一人がハーフジーパンにパーカーというラフなスタイル。厚木までは246号線を走り、アップダウンにヒーコラ、ヒーコラいいながら、なんとか目的地まであと十キロのところまで来た。

しかし、湖は山の頂上。ここからがひたすら登るだけの本当の戦いだった。一列になり風をよけながら登って行った。途中で一人がハンガーノック状態になり長い休憩。そこで偶然、動物供養碑を見つけ拝んだ後、ようやく頂上に無事到着した。

数時間の休憩後、帰路へ。行きとは逆に坂道をさっそうと下り、一気に厚木市内に入り、交通量の増えた夕暮れの246号線を渋谷方面に向かった。ところが急に前輪が重くなり、見るとパンクしている。応急手当をしている時、今度はバルブが折れてしまい、もう走行不能。結局、分解した自転車を抱えて、長津田から電車での帰宅となった。

虫めがね

去る七月にテレビ東京で、「地球温暖化で人類は様々な危機に曝されている」という内容で「地球危機2008」という番組が放送され、小林睦生先生や緒方一喜先生が出演されました。

台湾の高雄では、二〇〇五年にデング熱に五千四百人が感染し二十一人が死亡しました。

デング熱は感染者を吸血した蚊が、次の人にウイルスを媒介するという感染症で、全身に出血が起こる恐ろしい病気です。一年間に世界中で一億人もが感染し、二万人が死亡しています。これまでは、主にアジアの熱帯諸国の幼い子供たちが多く犠牲になっていましたが、今、温暖化で日本も危ないのです。デング熱を媒介する蚊は身近にいるのです。

そのヒトスジシマカは温暖化の影響で発育が二日ほど早まり、熱帯地なみに繁殖しています。成田空港では今年、機内で六月までに五十四匹捕獲したそうです。飛行機の車輪の格納庫は八℃に保たれているので、蚊が生きて侵入することも可能です。入国審査ゲイトでは、サーモグラフィで三十八℃以上の体温の人をチェックしています。緒方先生の地元の自治会では、毎月定期的に幼虫駆除剤を発生源の雨水枡にスプーンに一杯づつ散布して、一世帯あたり年間二百円足らずの予算で大きな効果が得られているとのことでした。専門家は、日本における流行も時間の問題だと警告しています。行政まかせではなく、平常時から各々が対策をしておく必要性を痛感しました。

おじゃま虫 Q&A

タバコシバンムシに関するお問い合わせ

Q 家の中を茶色の小さい虫が飛翔、徘徊しています。これは何でしょうか？
A よく見て、二ミリから三ミリくらいの小さなコガネムシのような形をしていれば、タバコシバンムシの可能性があります。また、形態や食性がよく似た種類にジンサンシバンムシがあります。
Q タバコシバンムシは、どんなものに発生しますか？
A タバコシバンムシは、名前の通り貯蔵葉煙草の大害虫として知られていますが、煙草の他、ほとんどの乾燥植物質を食害します。家庭の発生源としては、小麦粉、米粉、乾燥麺類、パン、菓子類、ペットフード、胡椒、唐辛子等の香辛料、ドライフラワーなど、多岐にわたります。また、畳のワラ床から大発生した例もあります。
Q どんな被害がありますか？
A 被害として多いのは「虫の飛翔や徘徊が気持ち悪い」という不快害虫としてのものですが、本種の幼虫の天敵であるシバンムシアリガタバチという小さな蜂が同時に発生し、人を刺す、二次的な被害もあります。
Q 駆除はどうしたらいいですか？
A 飛翔、徘徊している成虫に対しては、市販の殺虫剤(ピレスロイド系エアゾール剤)で駆除することが出来ますが、発生源対策として、食害されている食品類等(小さな穴が開いていたり、幼虫、成虫がいたりします)を探し出して、処分することが必要です。また、フローリングの板の隙間や部屋の隅に溜まった食べ物のカスから発生することもありますので、こまめな掃除で清潔を保つことも予防として必要です。